

ふるさと再発見 第30回

Re:discovery Omihachiman

近江八幡偉人伝 ③

―安土に芸術家を集めた人―

伊庭慎吉

『近江八幡の歴史』の最終配

本である第9巻「地域文化財」編を、いよいよ今月から頒布を開始します。「地域文化財」とは、地域で大切に守り伝えられているさまざまな地域文化遺産をさし、国・県・市に指定や登録されている文化財と分け隔てなく、同巻で紹介しています。

これらの地域文化財が残されるには、そのもとななる環境や人が重要になります。今回の近江八幡偉人伝は、その環境を作った人物の一人として伊庭慎吉を紹介します。

伊庭慎吉は、明治18(1885)

伊庭家住宅は、大正2(1913)

現在、市指定文化財である「旧伊庭家住宅」は、大正2(1913)

年に貞剛が慎吉のために建てた和洋式木造住宅で、ヴォーリズ建築です。建物内には慎吉のアトリエも設けられており、大阪や東京在住の数多くの画家が、同家に集っていたようです。「旧伊庭家住宅」に残る屏風には、慎吉夫妻に安土で歓待を受けたお礼をつづった書簡が、数多く張られています。大阪在住の画家・斎藤与里は、避暑で過ごした安土での思い出をイラスト入りでユーモラスに、画家ではありませんが思想家・徳富蘇峰夫妻は、秋に訪問したお礼を、児童文学家・巖谷小波も同様のお礼を記しています。

『近江八幡の歴史』第9巻「地域文化財」では、張り交ぜ屏風や旧伊庭家住宅の紹介のほか、画家伊庭慎吉についても記されています。ぜひご覧ください。



旧伊庭家住宅

年に貞剛が慎吉のために建てた和洋式木造住宅で、ヴォーリズ建築です。建物内には慎吉のアトリエも設けられており、大阪や東京在住の数多くの画家が、同家に集っていたようです。「旧伊庭家住宅」に残る屏風には、慎吉夫妻に安土で歓待を受けたお礼をつづった書簡が、数多く張られています。大阪在住の画家・斎藤与里は、避暑で過ごした安土での思い出をイラスト入りでユーモラスに、画家ではありませんが思想家・徳富蘇峰夫妻は、秋に訪問したお礼を、児童文学家・巖谷小波も同様のお礼を記しています。

『近江八幡の歴史』第9巻「地域文化財」 6月1日から頒布開始!

地域の人びとが守り継いできた歴史文化遺産を、市史編纂事業の調査成果から抽出し、紹介しています。

- 第一章 近江八幡の地域文化財
- 第二章 近江八幡の遺跡・景観
- 第三章 宗教文化の広まり - 戦乱と復興 -
- 第四章 近江八幡の文芸 - その土壌と発展 -
- 第五章 近江八幡の近代化遺産

A4判・並製本・本文 361頁・オールカラー 頒価 3,000円

※市史編纂室や文化観光課のほか市内書店などで購入いただけます。

問 市史編纂室 TEL (33) 2118 010424@city.omihachiman.lg.jp



伊庭慎吉画
觸躰花魁図



慎吉のアトリエ

広報おうみはちまん

令和3年6月号

編集・発行/近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236

TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp
WEB https://www.city.omihachiman.lg.jp

❗ 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

人口と世帯 令和3年5月1日現在 ()は前月比

総数	82,237人	(+ 24)
男	40,416人	(+ 17)
女	41,821人	(+ 7)
世帯	34,678世帯	(+ 30)

※外国人住民(44カ国・地域/1,600人)を含みます。